

平成29年9月10日号 (第177回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

暑さのピークは過ぎましたが、残暑が続く9月も食中毒の多い月です。家庭での食中毒の予防は原因菌を「つけない」「増やさない」「やっつける」が大切です。手や調理器具を洗う、食べ物は低温で保存する、調理はしっかり加熱処理するなど、細かい気配りで家庭での食中毒を防ぐことができます。

(詳しくは政府広報オンラインをご覧ください。)

http://www.gov-online.go.jp/featured/201106_02/index.html



今回の阿伎留通信は、

— 「外来のご紹介」 —

をテーマに外来看護科の山本 敬子 看護師長よりお話しさせていただきます。

当院の外来は22の診療科と、救急外来、外来化学療法室、内視鏡室、血管造影室を48名の常勤・非常勤看護師及び看護補助者で担当しています。

外来看護師は、医師の診療の介助や、採血や注射をする業務だけではなく、外来にいらした患者さんに対して、緊急性の判断や適切な診療科(担当医)へのご案内や、医師が適切な治療や検査をスムーズにおこなえるようにサポートしています。

病気を持っていても地域で安心して社会生活・療養生活を送れるよう、患者さんやご家族を支援することが、私たち外来看護師の重要な役割となっています。そのため学習会等を開催し、より専門性の高い看護の提供を目指し、日々人材育成に力を入れています。



次に外来看護業務の中から、外来化学療法室、内視鏡室、血管造影室の紹介をさせてい

たきます。

外来化学療法室では、患者さんが安心して在宅での治療を継続できるように詳細なパンフレットを作成し、各診療科の看護師と連携し、一人一人の患者さんに合った指導を実施しています。がん化学療法に対して、安全・快適・確実な治療をおこなえるよう、院内認定制度を設け、専任の看護師が担当し研修や講習会を開催し、知識や技術の鍛錬を重ねています。



お花の模様でリラックスして治療に専念

内視鏡室では、内視鏡技師免許を取得している看護師7名を中心に、安全で安楽な検査介助を目指しています。今年度は、『苦痛の少ない内視鏡検査』を目標に、横向き体位での楽な態勢を固定する枕を作成し、学会で発表するなど日々研鑽しています。また、使用する内視鏡の器械は世界水準の洗浄機を使用し、感染防止に努めています。



8月下旬より血管造影室の血管撮影装置が新しくなりました。これは、「造影剤」と言われるエックス線に写る薬剤を血管に注入して画像に写し、血管に異常がないかを見て診断を行う器械です。急性心筋梗塞や狭心症に対しての治療や検査をよりスムーズに、苦痛なく安心して受けていただけるよう最新鋭の機器を導入しました。



外来看護科では、今後も医師との連携を密にし、専門性の高い看護を行ってまいります。

阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)